令和６年１月　教育委員提案

戸田市のICT教育の現状について②

戸田市教育委員会
教　育　政　策　室

1　ICT教育の現状と課題

一人一台を生かした学びの構想　2016～

○実践のキーワードは「Just do it」「百聞百見は一験にしかず」

○ 教師主導の「指導と管理」による「教具的利用」から
学習者中心の「学びと愛用」による「文具的活用」へ

- 定着のキーワードは“entrust”　PCの普段使いは子供たちの方が上
- 意識されず忘れるくらい当たり前に、いつでもどこでも活用できてこその一人一台

○何のために使うかで価値が変わる。大切なのは、学びの質の向上
Pedagogy First, Community Second, Technology Third は学習指導の肝

- 知の自転車たるPCを、新たな学びの可能性と「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に生かすことが大切
- プリント学習からの離脱とノート離れの見直しを
- PC利活用という手段が目的化し、スマートで軽い授業にならないよう注意
- 学習者の活動がそのまま各自の考えの外化になるような使い方や「対話の可視化」などの模索を

○PC（ICT）は魔法の杖ではない。「技術」が解決するのではなく「活用」によって解決される → 教師の存在が一層大切になる

- 時には究極のチョーク＆トークの授業にもチャレンジ
- 単なる若手ではなく指導力のある教師が活用してこそ校内に広がる

○視野の外部や他者理解のため、アナログとデジタルの融合を

- 学校図書館のニーズが高まる。メディアセンターとしての役割の機能強化を

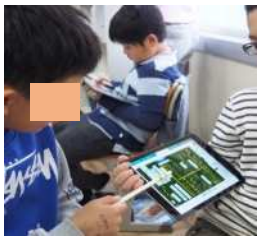
1　ICT教育の現状と課題

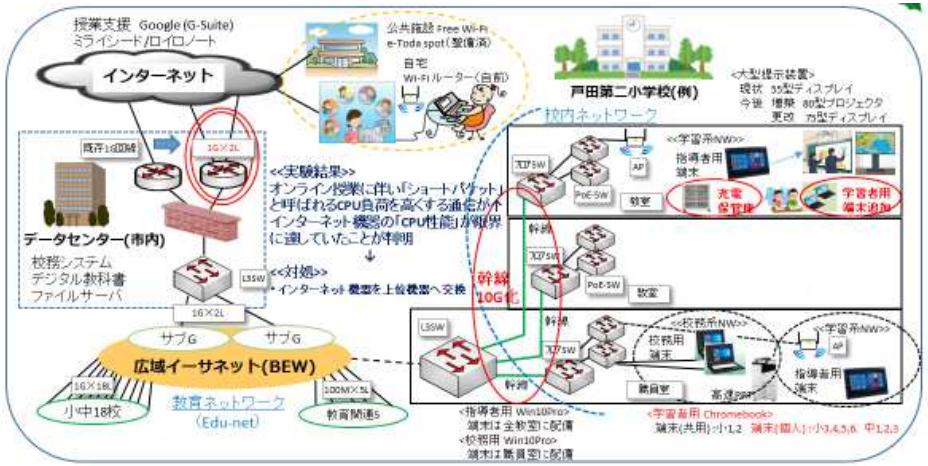
GIGAスクール構想の実現に向けた取組　2020~第２フェーズ

- **教育データの利活用**（学びのカルテ、生徒指導上のSOSの早期発見など）
- **戸田型オルタナティブ教育**（多様なニーズに応じ、落ちこぼれも吹きこぼれも、誰一人取り残されない教育）へのトライアル
- **デジタル・シチズンシップ教育**の充実や**メディアリテラシー**の挑戦
- **学校と家庭等との日々のシームレスな学び**（クラウド化の深化や反転学習）
- **デジタル教科書**や**CBT**が快適に機能するネットワーク環境の強化
- 高度で最先端の学びを実現できる**「次世代のメディアルーム」**
- 公立小・中学校での**STEAM教育の基盤づくり**









1　ICT教育の現状と課題

- **１人１台端末を活用した学び**をより効果的なものとしたい。
  →市内全小・中学校　に電子黒板機能付きプロジェクタを導入。
  △黒板的な板書のみにとどまる教師と機能を最大限活かす教師の活用方法の違い
  △１人１台の学習用端末と併用することによる協働的な学びや質の高い学びを実現する好事例の横展開
- **デジタルシティズンシップ教育**の本格導入。
  →令和５年度内に各校の年間指導計画に位置づけ、令和６年度は市内全校にて計画的な実施を行う。
- **令和の日本型学校教育の実現**に向けて
  →非同期の学びへの挑戦。
  ICTの特性を活かし個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指す。
  △従来型の一斉指導から脱却できない教師も多く、新しい学びに取り組む学校や教師に伴走し、好事例創出を支援する。
- 指導者用**デジタル教科書**の導入、学習者用は未導入（実証研究のみ）
  →学校によりデジタル教科書の利用状況が異なる。
  △実証研究以上の好事例創出の動きをとれていない。

2　教師のICTスキル向上を目指した研修の実施状況

教科教育深化プラン

・PBLが各校において推進されている今こそ、**SEEPプロジェクトの原点である「Subject（教科教育）」を深化**させ、それらを車の両輪として子供達の学びを充実していく必要。
・そのために、**教師間の同僚性**を高めつつ、共通的な基盤である**授業づくりの視点**と、教科の学びに夢中になるような、各教科固有の**「見方・考え方」を働かせる視点**の双方を強化していく。

★文科省「教員研修高度化モデル事業」を活用

３本の矢からなる「教科教育深化プラン」

①共通的な基盤である授業づくりの視点の浸透

●「アクティブラーニング指導用ルーブリック」の更なる改善



●RST（リーディング・スキル・テスト）の視点と、ユニバーサルデザインやICTの視点も組み合わせた、子供達のつまづきに対応した授業改善を全校で実施

●「学級経営ルーブリック」（仮称）の策定検討



②教師間の学び合いの場の拡充

●各中学校区で小中の教師がお互いに授業を見合う機会を促進



●夏季専門研修で、指導主事が教科指導の悩みを教師から聞いたり、教科の魅力を熱く語る機会を設定（選択必修参加）



★教科等研究部会での大学等から講師を呼んでの授業研究を支援

★センター研究員制度について、参加者の拡大と運営の活性化



③教育委員会によるサポート体制の充実



●各教科の、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の視点を授業と紐付けて提示



★モデル校４校における、大学・民間と連携した校内研修・授業研究等の高度化への支援

★大学と連携した算数・数学、体育の研修の充実

●学校経営アドバイザーによる訪問の充実



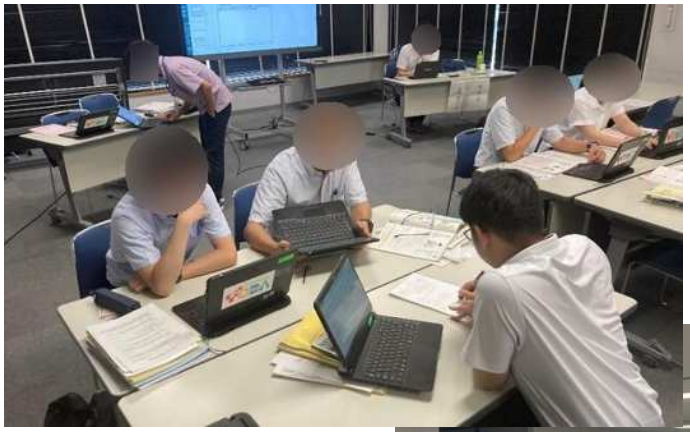
子供達の学びと教師達の学びは「相似形」
教師にも「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を！

2　教師のICTスキル向上を目指した研修の実施状況

令和５年度　教科等指導法研修及び専門研修

市内教職員を対象に選択必修で実施した教科等指導法研修会及び専門研修においては、研修の目的を達成させるため、**各担当指導主事が意図的に端末の活用を計画**し、**考えの可視化や共有による対話の活性化**を図った。



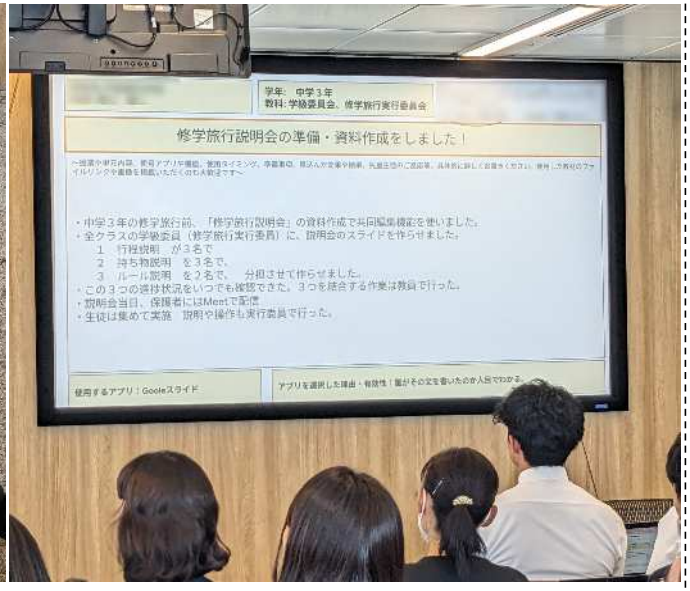




2　教師のICTスキル向上を目指した研修の実施状況

令和５年度　夏季専門研修　Google Workspace 活用力向上研修会
Google LLCの講師によるGoogle Workspaceの活用研修を行った。**市内全小・中学校１名以上を悉皆**とし、任意で複数の参加も認め、32名の教職員が受講した。**ICTが不得手な教員にも効果的な研修**となった。





受講者の感想

・子供たちがChromebookより使いやすいように指導することができそうだと感じました。**共同編集ができるGoogleのツールをより実践的に学習で使う方法についてイメージすること**ができ、早速教材研究したいと思いました。

・**初心者なのでツールの使い方を含めて、どんな場面で使うと効果的**なのか、自分自身が実際に使ってみたり、他校の先生から話を聞いたりして新たな引き出しを作る事ができた。

2　教師のICTスキル向上を目指した研修の実施状況

令和５年７月７日　戸田市プログラミング・ICT研究推進委員会開催
既に全校に電子黒板が設置されている戸田東小・中学校に**市内全校の推進担当者を集め、授業研究会を行った**。電子黒板の活用に関する協議題を設定し、活用方法に関する参加者同士で議論を深めた。また、戸田市教育委員会で運営している**ポータルサイトを再度周知**した。



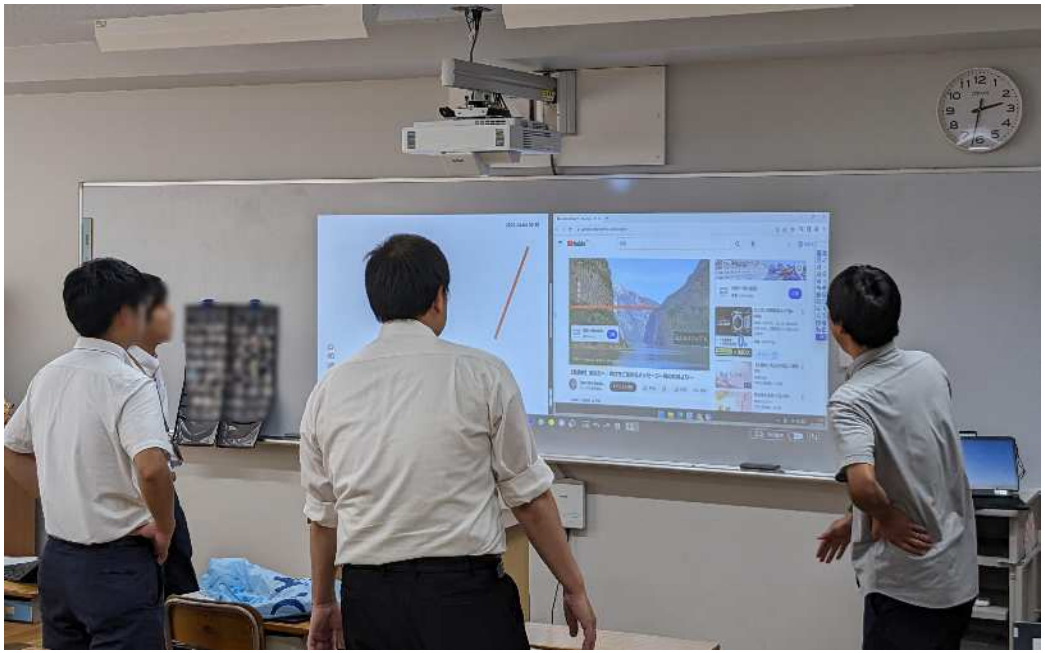


２　教師のＩＣＴスキル向上を目指した研修の実施状況

令和５年８月４日　情報マネジメント研修会

　戸田第一小学校の新校舎、５学級を借用し、休み明けから導入される**電子黒板のハンズオンの研修**を行った。全体で基礎的な使い方を学んだ参加者は、グループに分かれ、**授業に活かせる効果的な活用を試行**した。

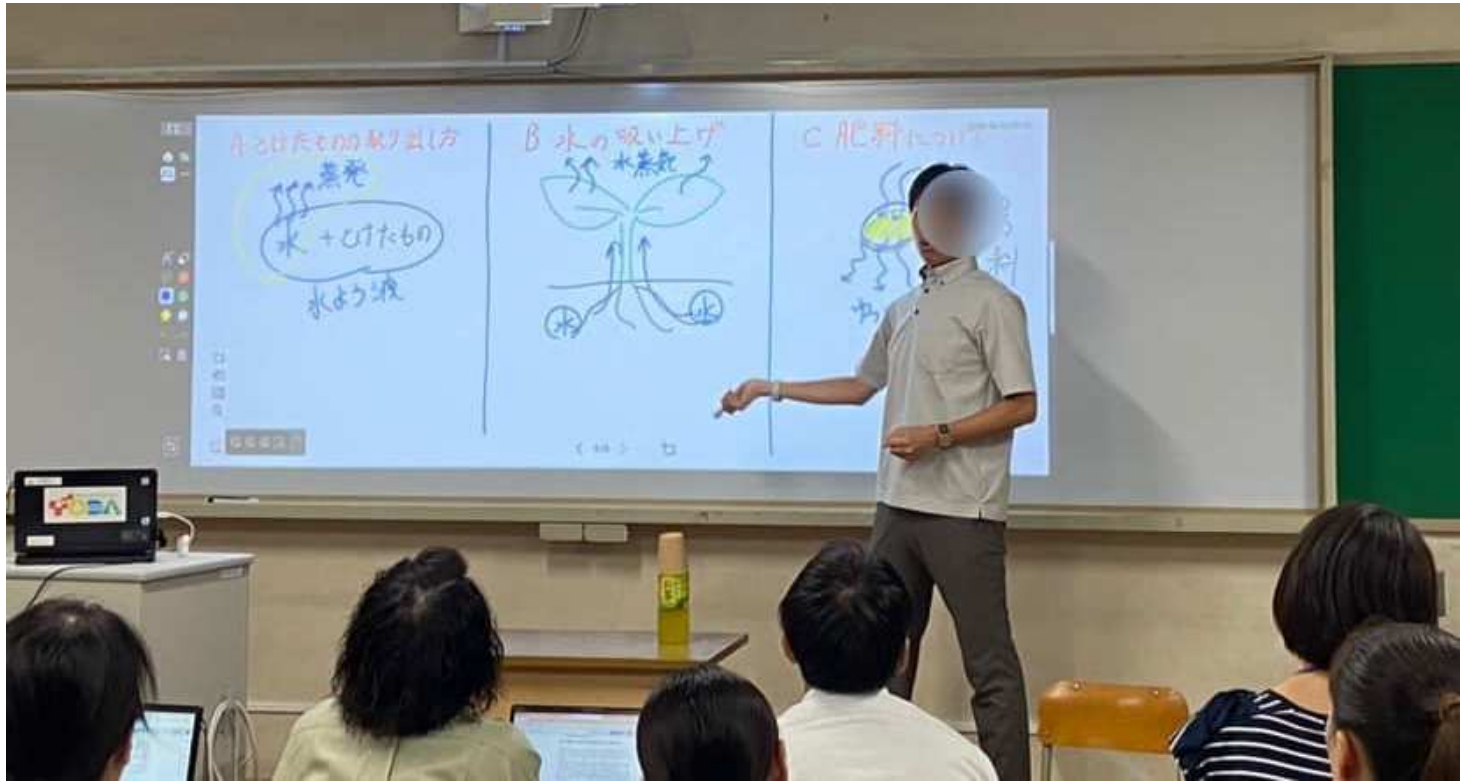




2　教師のICTスキル向上を目指した研修の実施状況

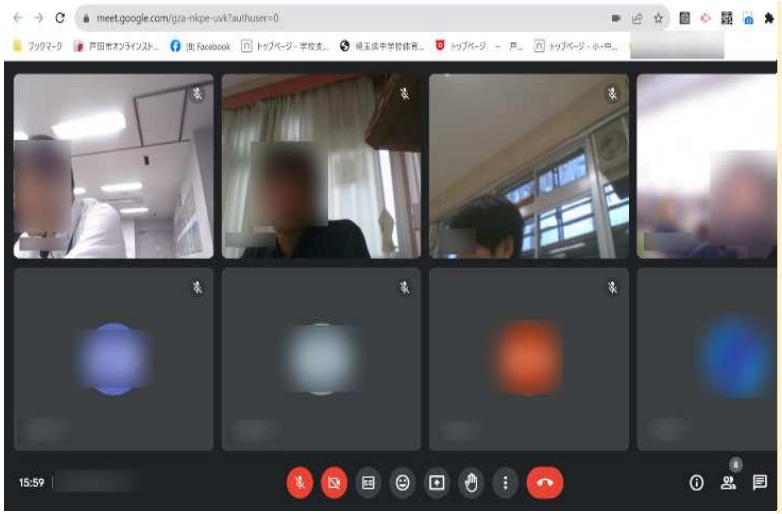
令和５年夏期休業中

　富士電機ITソリューションズの担当者らが、設置を終えた**学校ごとに訪問**し、**教職員を対象とした電子黒板の活用研修**を実施した。また、**さらに研修時間を確保し、効果的な活用を模索している学校**も見られた。

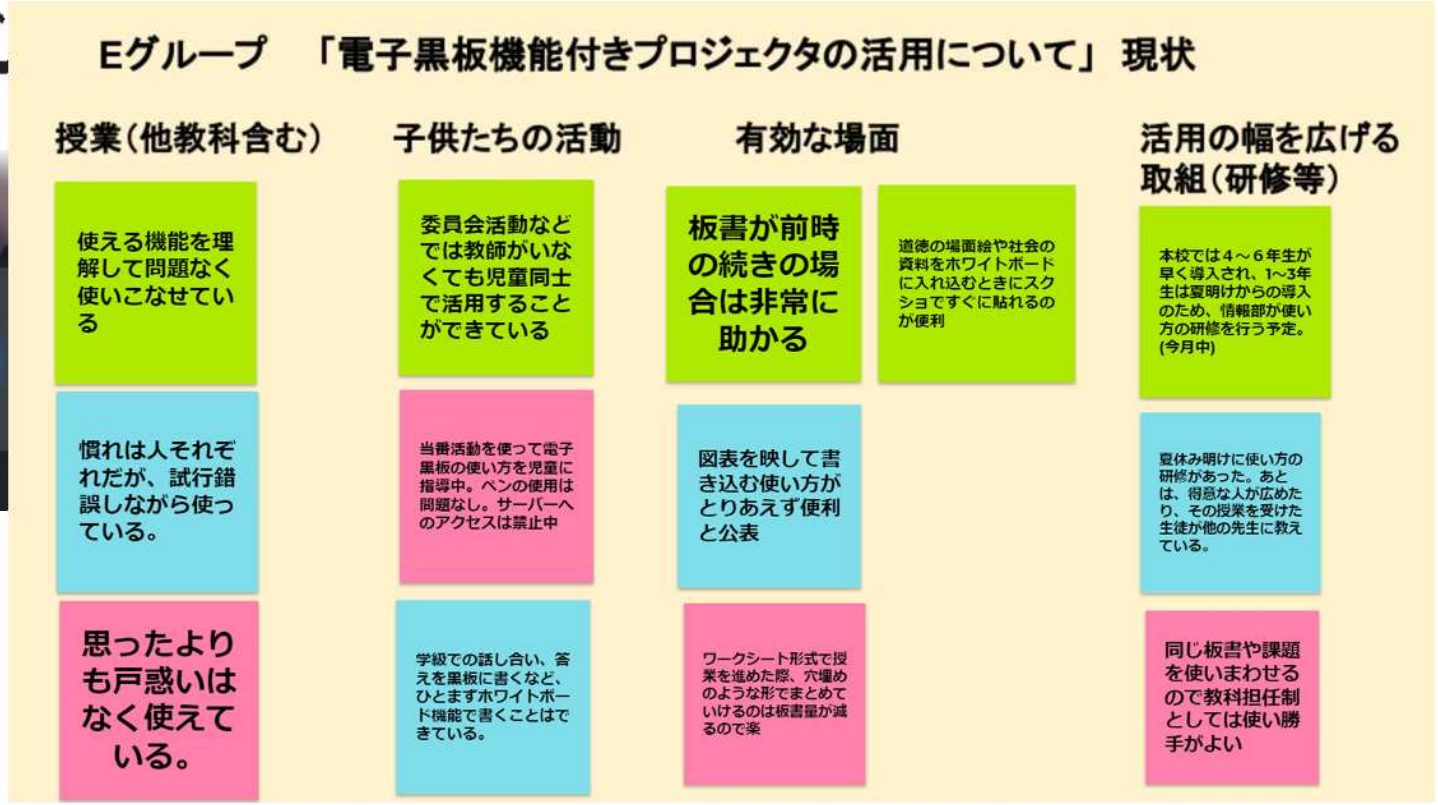


2　教師のICTスキル向上を目指した研修の実施状況

令和５年９月８日　プログラミング・ICT研究推進委員会開催
　夏休み明けの運用状況のフォローアップのため、標記委員会を開催し、**効果的な活用方法や困り感等を共有**した。



【グループ協議の様子】



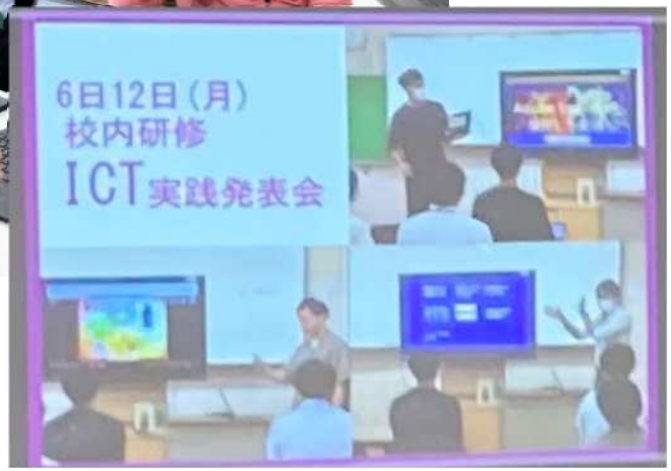
2　教師のICTスキル向上を目指した研修の実施状況

各学校での研修

　市内各小・中学校においては、**各学校ごとにICTスキル向上を目的とした研修を設定**し、**ICT活用のノウハウ**を伝達し合っている。







2　教師のICTスキル向上を目指した研修の実施状況

学校訪問による指導・助言

　学校訪問の機会を捉え、授業者に対して各教科等の指導主事が、**個別且つ具体的に、ICT活用の改善方法**についても指導・助言している。





3　保護者や市民へのICT教育の必然性の啓発について

■保護者や市民へのICT教育の必然性の啓発について
戸田市教育委員会のフェイスブックにおいて、**市内各学校訪問等での取組について発信**している。





3　保護者や市民へのICT教育の必然性の啓発について

■子供の学びを語る会の開催について
ICTを活用した学びについて、保護者を対象とした**子供の学びを語る会を実施**した。**保護者がデモ授業を体験したり、教員と一緒になって協議したりする場**を設定した。

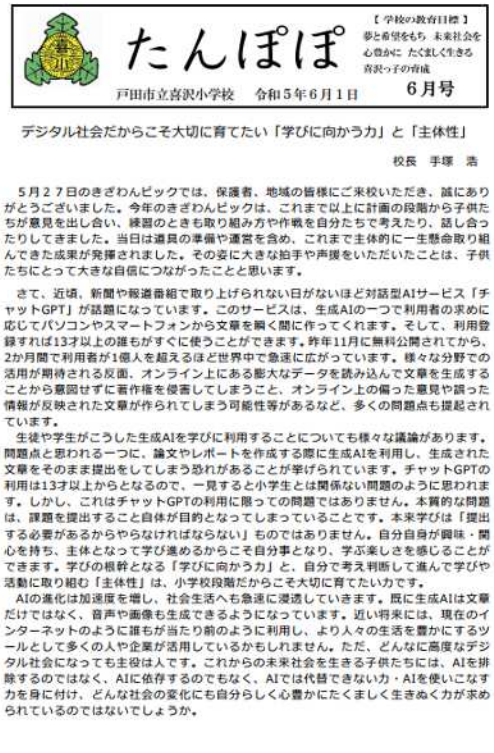




3　保護者や市民へのICT教育の必然性の啓発について

■学校だよりの巻頭言での周知

各学校においては、学校だよりの巻頭言で取り上げたり、担任から懇談会等を通じて保護者に説明をしている状況である。



たんぽぽ

【学校の教育目標】夢と希望をもち 未来社会を心豊かに たくましく生きる 喜沢っ子の育成

戸田市立喜沢小学校　令和5年6月1日　6月号

デジタル社会だからこそ大切に育てたい「学びに向かう力」と「主体性」

校長　手塚　浩

5月27日のきぎわんピックでは，保護者，地域の皆様にご来校いただき，誠にありがとうございました。今年のきぎわんピックは，これまで以上に計画の段階から子供たちが意見を出し合い，練習のときも取り組み方や作戦を自分たちで考えたり，話し合ったりしてきました。当日は道具の準備や運営を含め，これまで主体的に一生懸命取り組んできた成果が発揮されました。その姿に大きな拍手や声援をいただいたことは，子供たちにとって大きな自信につながったことと思います。

さて，近頃，新聞や報道番組で取り上げられない日がないほど対話型AIサービス「チャットGPT」が話題になっています。このサービスは，生成AIの一つで利用者の求めに応じてパソコンやスマートフォンから文章を瞬く間に作ってくれます。そして，利用登録すれば13才以上の誰もがすぐに使うことができます。昨年11月に無料公開されてから，2か月間で利用者が1億人を超えるほど世界中で急速に広がっています。様々な分野での活用が期待される反面，オンライン上にある膨大なデータを読み込んで文章を生成することから意図せずに著作権を侵害してしまうこと，オンライン上の偏った意見や誤った情報が反映された文章が作られてしまう可能性等があるなど，多くの問題点も提起されています。

生徒や学生がこうした生成AIを学びに利用することについても様々な議論があります。問題点と思われる一つに，論文やレポートを作成する際に生成AIを利用し，生成された文章をそのまま提出をしてしまう恐れがあることが挙げられています。チャットGPTの利用は13才以上からとなるので，一見すると小学生とは関係ない問題のように思われます。しかし，これはチャットGPTの利用に限っての問題ではありません。本質的な問題は，課題を提出すること自体が目的となってしまっていることです。本来学びは「提出する必要があるからやらなければならない」ものではありません。自分自身が興味・関心を持ち，主体となって学び進めるからこそ自分事となり，学ぶ楽しさを感じることができます。学びの根幹となる「学びに向かう力」と，自分で考え判断して進んで学びや活動に取り組む「主体性」は，小学校段階だからこそ大切に育てたい力です。

AIの進化は加速度を増し，社会生活へも急速に浸透していきます。既に生成AIは文章だけではなく，音声や画像も生成できるようになっています。近い将来には，現在のインターネットのように誰もが当たり前のように利用し，より人々の生活を豊かにするツールとして多くの人や企業が活用しているかもしれません。ただ，どんなに高度なデジタル社会になっても主役は人です。これからの未来社会を生きる子供たちには，AIを排除するのではなく，AIに依存するのでもなく，AIでは代替できない力・AIを使いこなす力を身に付け，どんな社会の変化にも自分らしく心豊かにたくましく生きぬく力が求められているのではないでしょうか。



戸田市立笹目小学校　令和5年度9月号

笹目小だより

学校教育目標 かしこく やさしく たくましく

戸田市笹目6丁目9番地の1　TEL 421-3524　児童数267名

笹目小学校 HP　https://www.toda-c.ed.jp/site/sasame-e/

新たな教室の風景

～ホワイトボードとプロジェクタが導入されました～

校長　武藤　昌博

夏休みが終わり，子供たちが学校に戻ってきました。元気に登校する姿から，本校の目指す「かしこさ」，「やさしさ」，「たくましさ」を夏休み中にも発揮したことがうかがえました。

本校では，6月から始まった外壁工事が，夏休み中に集中して行われました。それ以外にも，教室の黒板をホワイトボードに変更する，電子黒板機能付きプロジェクタを設置する工事が行われました。また，全ての証明をLED化する工事も同時に始まっています。保護者の皆様や地域の皆様には，大変ご迷惑をおかけしております。今後も外壁工事は続きますので，ご不便をおかけいたしますが，引き続きご協力をお願いいたします。

さて，一人一台のタブレット端末の貸与により，子供たちの学びは大きく変わりました。この度のホワイトボードとプロジェクタの設置によって，さらに，豊かで効果的な学びの環境を提供することができるようになります。教室の風景は，今後さらに変化すると思われます。

すでに，本校では，これまでの教師が「与えて，させて，見回る」いわゆる昭和の一斉指導を改め，教師は伴走者に徹し，「聞いて，助けて，支えて，見守る」授業に取り組んでいます。「教育活動を子供まんなかに」を基本とし，子供たちが主体的に学びに向かえるよう改善を図っています。この度のホワイトボードとプロジェクタの導入によって，子供たちの好奇心を刺激し，より深い理解を促すことができるようになると考えています。また，子供たちの発表やプレゼンテーションを行う機会がこれまで以上に充実しますので，自信と表現力が向上すると考えています。

https://www.city.toda.saitama.jp/jugio-toda/230501/pdf/02-03.pdf（教育広報とだ）

夏休み中に，子供たちはたくさんの経験を積み，本校の目指す「かしこさ　やさしさ　たくましさ」を身に付けてきました。夏休み明けには，家庭で身に付けた力をもとにしながら，学校の新しい環境を有効に活用し，さらに子供たちの「かしこさ　やさしさ　たくましさ」を発揮させてまいります。

保護者の皆様におかれましては，授業参観やボランティア活動等，来校の際には，新たな教室の風景をご覧いただき，令和の学校教育を感じていただければと思います。夏休み明けの本校の教育活動にもご期待ください。

☆日々の教育活動をFacebookにて配信しています。下記URLからアクセスください。
笹目小学校 Facebook　https://ja-jp.facebook.com/sasame.es/
笹目っ子の学びの姿をより多くの人々に伝えていきたいと思います。
ぜひ「いいね」「フォロー」をお願いします。



①深く考え行動する子ども　②進んで動く子ども　③健康でたくましい子ども　④思いやりのある子ども

笹目東小だより

にこにこ　きびきび　わくわく

令和5年8月25日　戸田市立笹目東小学校　http://www.toda-c.ed.jp/site/sasmehigasi-e/

児童624人　男子313人　女子311人　電話421-6674

1人1台端末と電子黒板の活用！

～未来社会で、生きて働く力を身につけるために～

校長　片岡　昭博

夏休みが終わり，今日から，前期の後半が始まりました。夏休み前に私から子供たちに，お家や地域で自分から「にこにこ」と挨拶をしたり，「きびきび」と規則正しい生活を心がけ，「わくわく」と日頃，疑問に思っていることなどをタブレットを使って調べ，自分で課題を見つけて夏休みの学習に取り組むように伝えました。

今朝，子供たちが元気に登校する姿を見て，それぞれ，充実した夏休みを過ごすことができたのだと感じているところです。

子供たちは，日頃の学習において，タブレットを文房具のように使っています。そのICTの活用をより充実させるため，これまで使用してきた大型提示装置（テレビ）をなくし，黒板をホワイトボード化するとともに，大型提示装置（電子黒板機能付きプロジェクタ）が全ての教室に設置されました。これにより，プログラミング教育やPBLといったクリエイティブな学習がより行いやすくなります。

授業内容や連絡事項を児童に見せるだけなら，普通の黒板と変わらないかもしれませんが，黒板では，毎回書いて消す時間がかかる上に，一度消した情報は元に戻りませんが，電子黒板なら，内容を保存し，後から必要に応じて呼び出して確認することができるようになります。

もちろん学習の内容によっては，電子黒板を使わない学習もありますが，例えば算数の授業で，児童の解答を一斉表示し意見交換を充実させたり，デジタル教科書を表示し前回の授業の内容を振り返ったり，今日の授業で学ぶ課題を大きく表示するなどができるようになります。また，学習のめあてなど授業時間全体を通して見せたい部分はホワイトボードに教具が予書きするなど，デジタルとアナログの良い面を活用し，児童があちこち目をそらすことなく，見せたい部分をフォーカスすることが可能になります。

さらには，児童それぞれが端末に書き込んだ解答を電子黒板で意見共有したり，解き方が異なる児童の解答をピックアップして大きく表示したりと，児童と教員，児童同士のやり取りが生まれる場面を電子黒板で生み出すなど，児童にとってもより授業が分かりやすくなるものと期待しています。

本校では，これからも，GIGAスクール構想を推進し，デジタル・シティズンシップ教育を進めながら，児童一人一人が未来社会で，生きて働く力を身に付けるための学びをこれからも進めていきたいと考えておりますので，保護者の皆様には，引き続き御理解と御協力をお願いいたします。



学校の教育目標　かしこく　やさしく　たくましく

家庭と学校の絆

令和5年9月29日 No.5

美女木小だより

戸田市立美女木小学校　戸田市美女木2－53－1　Tel 421-1037　児童数670名

変化と進化

校長　田野　正毅

4月から始まった前期が，6日に終業式を迎えます。ちょうど今，前期の学習のまとめの時期です。これまで取り組んできた学習等について，どんなことをがんばってきたか，また，後期に向けてどんなことに力を入れていきたいか，一人一人振り返りを行っています。御家庭でもぜひ，がんばってきたことをたくさんほめて，後期への意欲を高めていただきますようお願いいたします。

さて，学校ではこの夏，教室の黒板がホワイトボードになり，電子黒板機能付きのプロジェクターが設置され，教室環境や授業の様子が大きく変化してきています。

これまで学校では，明治時代から約150年の長きにわたって変わらずに，黒板が，知識や情報の伝達，また意見や考えの共有等のため，教師と児童を結びつけるインターフェースの役割を担ってきました。それが，1人1台のタブレット端末を活用するようになり，教師から一斉に児童へ教えるという一方向的な学びから，児童同士の学び合いを教師が支援・伴走するような双方向的な学びへと変化し，それに伴い，黒板に求められる役割も変化しています。

もちろん，これまで黒板が担ってきた情報の提示や伝達，共有などの役割は変わりません。しかし，電子黒板機能には，これまでの黒板ではできなかった資料などの拡大縮小や書き込み，また正確な図形描写や複写，移動などに加え，保存と読み出しなど，デジタルならではのメリットが多くあります。

これにより，例えば，タブレット端末に入力した自らの考えを提出して共有したり，プレゼンを提示して発表したり，それらをもとに意見を出し合って話し合ったりすることなどが簡単にできるようになり，児童のアウトプットを重視した双方向的な学びへ進化させることが可能となります。教室環境の変化から学びの進化へ，今まさに動き出しているところです。

かつて，スマホの普及の裏側で，日本のケータイがガラパゴス化していると揶揄されました。学校教育もガラパゴス化しないよう，社会の変化を取り入れながら日々変化，進化していくことが重要です。10年後，20年後の子供たちが活躍する未来社会を見据えながら，子供たちに生きて働く力を身に付けられる学びへと進化していく学校教育を目指してまいります。

3　保護者や市民へのICT教育の必然性の啓発について

■戸田市教育委員会noteでの発信

戸田市教育委員会の公式のnoteにおいて、**「ICTは知の自転車！戸田市のGIGAスクール構想」**と題して２回記事を掲載している。





3　保護者や市民へのICT教育の必然性の啓発について

■保護者や市民へのICT教育の必然性の啓発について

広報戸田１月号において特集を組んで市民への啓発を行った。



戸田市の教育の「今」をお知らせします

市では「教育日本一」を目指し、子どもたちの学びについて、さまざまな取り組みを実施しています。
今回は、その中から「ICTを活用した新しい学び」「課題解決型学習（PBL）」についてお知らせします。

問い合わせ　教育政策室（内線654）

ICTを活用した新しい学び

子どもが創り出す学びへ！　～1人1台端末×プロジェクタで学びの質を高めています～

1人1台端末を活用した学びをより効果的なものとするために、令和5年8月に市内全小・中学校の全教室に「電子黒板機能付きプロジェクタ」と「ホワイトボード」を導入しました。1人1台端末と親和性の非常に高い電子黒板機能付きプロジェクタをかけ合わせることで、これまで以上に学びの幅を広げ、理解を深めることができます。

従来の黒板だと…

- 子どもたちが課題への考えや答えを紙に書いて、黒板へ貼り付け
- 担当教員による黒板への書き出し
- 自分の考えを各々プリントへ手書きでメモ

電子黒板だと…

Point 1　すぐに発表できる、見比べられる

60インチのテレビモニター2つ分の大きさで資料を提示できます。用途に応じて拡大・縮小できるので、ストレスなく授業を受けることができます。

Point 2　書き込める、残せる、意見をまとめられる

電子ペンを使って、電子黒板に直接書き込むことができます。学習内容について、友達の考えを参考にしたり話し合ったりして、子どもたちが学びを深めていくことに役立ちます。

Point 3　理解が深まる

教師から教わるだけでなく、1人1台端末で主体的に学ぶことにより知識が定着します。さらに、培ったアイデアをもとにした授業を展開することで、子どもたちの学習の理解が深まります。

使ってみた感想

子どもたちの考えを大きな画面にすぐに提示できて、学び合う授業づくりがしやすくなりました。

教師

以前は、紙でつくった資料をたくさん貼っていましたが、デジタルデータをすぐに提示でき、準備も楽になりました。

児童生徒

自分の考えや友達の考えがホワイトボードにすぐに出るので、進んで授業に取り組むようになりました。

大きな画面でみんなの考えを比べながら見られるようになったので、いろいろな意見にふれやすくなりました。

大きくて見やすいです

とだっ子は ICT を活用して、主体的に学ぶ力を高めています！

課題解決型学習（PBL）

地域・社会とつながる探究的な学び「PBL」を紹介します！

子どもたちが身近な課題や社会の課題を自分事として捉え、さまざまな人と協働しながら解決する力の育成を目指し、全ての小・中学校で PBL（Project-Based Learning ＝課題解決型学習）に取り組んでいます。決まった正解がない課題の解決のため、子どもたち自身が地域や社会のさまざまな人と関わりながら、試行錯誤を経て学びを深めています。

詳しくはこちら～

PBLで育む課題解決力の例

- 自ら動き出す力
- 課題を見つける力
- 情報活用の力
- さまざまな人と協働する力
- 創造する力
- 粘り強く物事に取り組む力

地域とつながる小学校の事例

「環境問題の解決」をテーマに取り組んだ学習では、子どもたちがグループごとに解決したい課題を設定し、それぞれが地域とつながりながら、「誰かの」「何かの」課題を解決する実践的な学びを進めました。

地域の方と一緒にごみゼロ運動を実施！

地域の専門家へ環境問題について相談

フードロス削減レシピを考案し、地域のお店で商品化。戸田駅市にも出店！

新聞紙でつくったエコバッグをお店に設置して使っていただく

社会とつながる中学校の事例

海洋汚染の原因となるプラスチックごみの削減を目指し、毎日の給食で使っている牛乳のストローについて、使用しなくても飲みやすい紙パックの形状を考えました。その後、紙パックの製造企業を訪ねてアイデアを提案・意見交換をして、アイデアをよりよいものにしました。

飲み口をこのような形にしてはどうでしょうか？

なるほど。それはナイスアイデアですね

企業の方にアイデアを提案

地域・社会とつながる「本物」の学びを通して、とだっ子は課題解決力を身に付けています！

戸田市児童生徒プレゼンテーション大会

毎年、各学校の代表が PBL の取り組みを発表するプレゼンテーション大会を開催しています。金賞校のプレゼンテーションを市公式 YouTube で配信しています。

令和4年度　小学生の部　金賞　戸田東小学校
「～つけおき君式～ 習字の筆を楽に洗おう」

【着目点】身の回りの課題解決を考え、書き初め時の筆洗いに着目。使用後の筆を洗うと、洗面台が汚れる、水道代がかかる、手も冷たく、何より手間がかかる。

【解決方法】洗濯のりと重管を混ぜてつくった筆洗いアイテム「つけおき君」を作成。「つけおき君」によって筆が痛むのではないかという懸念もあり、洗濯のりや習字用品を扱う会社へ効果について問い合わせ、効果的であるというお墨付きを得た。

【期間・反響】校内で調査会を開いて使用を促した。事後アンケートでは満足度 100% を達成。

令和4年度　中学生の部　金賞　喜沢中学校
「子どもたちの交流機会を増やそう」

【着目点】戸田市には子育て世代が多いことに着目。コロナ禍により行動制限がある中でも、子どもたちがつながれる機会を創出したい。

【解決方法】「児童センターこどもの国」と連携し、未就学児が楽しめるイベントを企画し、ポスターやこどもの国公式 LINE、ホームページで情報発信。
イベント当日は、ボウリング大会を実施し、チケットは完売。イベント後にオリジナルマスクを配布。

【期間・反響】その後も定探しイベントを企画・実施するなど、取り組みを継続した。

おわりに

戸田市は、**ICT活用に関して全国及び海外から視察が相次ぐなど全国的に注目**されている状況であり、GIGAスクール構想の先進自治体の１つとも考えられる。様々な研修等の実施により、**ICTの活用が学習面だけでなく校務のDX化にもつながっている**と考えられる。

しかしながら、活用には学校間格差や学校内格差も生じている現状があるのも事実である。**子供たちの学びと教師の学びは相似形**であることを踏まえ、教師にもICTをマストアイテム化した**個別最適で協働的な研修の場を提供**することで、**子供たちの学びをより一層充実**させていく。